



今月のおすすめ絵本 12月



あそびの杜保育園



「からすのパンやさん」ほとんどの保育園や幼稚園においてある絵本です。

いずみがもりに「からすのパンやさん」のお店がありました。

そこに4羽のあかちゃんが生まれました。

オモチちゃん、レモンちゃん、リンゴちゃん、チョコちゃん。

お父さんとお母さんは、優しく大事に育てました。パンやさんは大忙し。朝早くから起きて、パンを作り、お店の掃除をし、お客さんにパンを売ります。

その合間にあかちゃん達をあやしたり、抱っこしたり、おっぱいをあげたり、おしめをとりかえたり。そのうちに、お店がちらかってきて、お客さんも減っていき…とうとう貧乏になってしまいました。

お店で売れなかったパンやこげたパンなどは、みんな子どもたちのおやつになります。そのおやつパンが、まわりの子どもたちの間で評判になり、みんなが買いにくることに。

そこで、「からすのパンやさん」は一家総出で沢山のパンを作ります。

何と80種類以上！

香ばしいにおいが森いっぱいに広がり…もりのみんなはおおさわぎ…パンやさんも大忙しです。

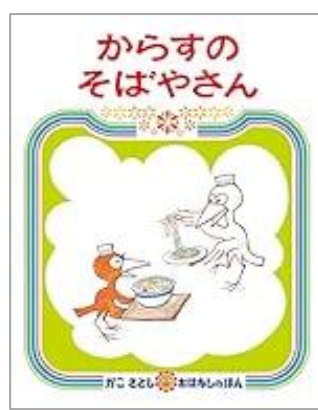


この4冊は、「からすのパンやさん」の続編です。

4羽のからすの子どもたちは、さらに大きくなって、チョコちゃんはケーキやさんに、リンゴちゃんはやおやさん。レモンちゃんはてんぷらやさんに、オモチちゃんはおそばやさんになりました。

それぞれが違ったお店屋さんで働く姿が描かれています。

聞いただけで食べたくなるようなお菓子、みんなで知恵を絞って繁盛店になるやおやさん。「てんぷらやさん」のお話は子どもたちがクッキングに興味を持つきっかけになりそう。ユニークなメニューがどんどん増えていくおそばやさん。「からすのパンやさん」同様に、おいしそうで楽しく、ウキウキする絵本です。



かこさとし先生のお話は、1冊で終わらず続編が出ているものがたくさんあります。最近の絵本に比べると、絵に時代を感じますが、大人の感覚と子ども達の感覚は違うようです。「だるまちゃん」と…のシリーズはどの絵もちょっと時代を感じますが子ども達には人気です。



子どもたちの知的好奇心をくすぐるような本がたくさんあります。

からだのいろいろに興味を持ち始めた時にぴったりのシリーズもあります。

また、デビュー作「ダムのおじさんたち」では、ダムがどのように作られるかを知ることができます。化学や科学、あそびの本など多岐にわたる分野の絵本がたくさんです。

新しい絵本、古い絵本…それぞれの時代の面白さを感じられる絵本。そして、そこには必ず正しくきれいなことばが使われています。流行りのことばは街の中からも聞かれますが、きれいで正しいことばは、意識しないと耳にできない時代になりました。だからこそ、子ども達にはいろいろな絵本を楽しんでもらいたいです。



加古里子（かこ さとし）

1926年現在の福井県越前市に生まれる。東京大学工学部応用化学科卒業。工学博士。技術士（化学）。児童文化の研究者でもある。現在は、出版を中心に幅広く活躍。作品は『からすのパンやさん』を代表する「かこさとしおはなしのほん」シリーズ、『うつくしい絵』、「だるまちゃん」シリーズ、『とこちゃんはどこ』、「かこさとしからだの本」シリーズ、『伝承遊び考』など600点余。2008年菊池寛賞受賞、2009年日本化学会より特別功労賞を受賞。2018年5月没。（かこさとし 公式サイトより）

